



文化と人の輪

1985年に「写真の町」を宣言し、35周年目を迎えた。写真の町宣言や写真文化によって町は活性化するか、町づくりに繋がるのかとの疑問は当時もあつたし、今日もあることは否定できない。しかし、仮に写真の町を宣言していなかったら、町づくりに対する評価や各界からのご指導やご支援をいただいたであろうか、と思うことがある。何よりも大きいのは、写真文化を切り口として、様々な人々に出会い、多様なご提言が寄せられ、良いまちづくりに向かっていることである。人々との出会いが、また次へ、次へと持続していく。

今年の子育てと教育、高齢者の生きがいの促進などを新規重点施策として予算編成を行っている。財源は何かと言えば、留学生を含む人口の微増が定期的に町を支えていることや、地方固有の財源と言われる地方交付税、そして環境を重んじ、地方の教育を支援する㈱ホクリク（東京都、野口研二社長）の企業版ふるさと納税などとなっている。人の輪に

よって支えられている。

文化に関わる人々（文化人）は国の将来の姿を事前に察知するともにも、自らも国に向かつて提言した方も多い。お世話になった文化人は資生堂名誉会長の福原義春氏（前東京都写真美術館館長）に始まり、菅原浩志氏（映画監督）、鈴木輝隆氏（教授）、伊藤玄二郎氏（かまくら春秋）、玉村雅敏氏・小島敏明氏（教授）、磯田憲一氏（元副知事）、平田オリザ氏（演出家）、藤野千鶴子氏（画家・故人）、など。いずれも写真文化がご縁の、町にとって大きな出会いである。

「東川町は強運だ、運が良い」と表現する人がいるが、弱い地方をしつかりと応援したい文化人の輪があるからだと思う。写真文化が町に「よい運」を運んでくれているのかもしれない。写真映りの良い町づくり、写真の被写体となっても恥ずかしくない人づくり（教育）を目標にした「写真文化」が、町の価値創造に大きく貢献している。文化は人の輪を拡大し、地域に大きな価値を生み出す。今後とも人の輪（和、話）を大切にしたいものである。

貸し出し図書ビデオ紹介

せんとぴゅあII ほんの森

【貸し出し】
 図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)
 DVDは一人2本まで(8日間)

★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

熱源 (一般書)
 川越 宗一 / 著 文藝春秋 / 刊

開拓使たちに故郷を奪われ、集団移住を強いられたのち妻や多くの友人を亡くし、日本人にされそうになったアイヌ人。一方、強烈な同化政策により母語を話すことも禁じられ、ロシア人にされそうになったポーランド人。文明を押し付けられ、それによってアイデンティティを揺るがされた経験を持つ二人が樺太で出会い、自らが守り継ぎたいものの正体に辿り着く。

トイ・ストーリー4 (DVD)
 販売元:ウォルトディズニージャパン

おもちゃの世界を描いた大ヒットシリーズ第4作。ウッディたちの新しい持ち主の女の子・ボニーが作ったフォーキーを快く迎えるウッディたち。しかしフォークやモールでできたフォーキーは自分を「ゴミ」だと認識し、ボニーのもとを逃げ出してしまう。フォーキーを連れ戻しに行ったウッディは、かつての仲間であるボー・ピープのランプを発見し…。(100分)

かわにくまがおっこちた (絵本)
 リチャード・T・モリス / 作 レウイン・ファム / 絵 岩崎書店 / 刊

くまが川に落ちて、丸太に乗って下っていくと、次々動物たちがあらわれます。ぴょん!とカエル。にゅっ!とカメ。へーい!とビーバー。ヒャッ、ホー!とアライグマ。どっしーんとアヒルにぶつかった先は?わくわくした冒険が教えてくれるのは、ばらばらに生きているようで、本当はみんな同じ船に乗る仲間だということ。個性あふれる動物たちの疾風怒濤な絵本。